

Strix 8:297-298 (1989)

軽井沢におけるシラガホオジロの観察例

高橋満彦¹

シラガホオジロは我国には稀な冬鳥として渡来する。長野県内では松本市，南安曇郡，木曾福島周辺に戦前の記録が6例ほどあるが（清棲 1965），東信地方の軽井沢町では未記録であった。報告者および慶応義塾大学野鳥の会会員数名は，1988年11月13日および1989年2月8日に軽井沢町追分でシラガホオジロを観察したので報告する。

観察地

観察地は長野県北佐久郡軽井沢町大字追分の国道18号線，「追分中央」バス停付近から信越本線との間に広がる農耕地である。この農耕地は主として野菜畑と水田に利用されており，溜池が2か所ある。溜池の周辺などにはヨシなどが生える高茎草原がある。また農耕地の周辺は別荘の散在する雑木林である。

観察記録

1988年11月13日，溜池周辺の高茎草原で2羽観察した。2羽は共にヨシの茎などにとまり，頻繁に小移動を繰り返していた。1羽は雄の冬羽と確認できたが，他の1羽は落ち着きがなく，よく羽色を確認できなかった。また2羽とも，飛翔中，「ビュリュー，ビュリュー」と鳴いた。

1989年2月8日，信越本線の築堤で冬羽の雄1羽を観察した。この個体は枯草がやぶ状になった方面を落ち着きなく動きまわっていた。やぶの中で枝にもとまるが，主に地上で採食していた。

なお，11月13日の観察例を日本野鳥の会軽井沢支部12月号に掲載したところ（「信濃追分にシラガホオジロ」野鳥軽井沢73号），この地点での観察例が相次ぎ，軽井沢野鳥の森管理員，馬場孝雄氏からの私信によれば，12月7日より1月8日の間に合計16回，最高45羽観察されたという。また小林（1989）は1月2日に46羽を観察したと報じている。

シラガホオジロは主な生息域であるシベリア，中国，サハリンでは疎林，草原，湿地などに生息し，茎の高いやぶを好み（Flint 1984，山階 1980），種子などを地上で採食する（水野 1940）。冬期には農耕地，灌木地を好むようであり（清棲 1965），追分原の環境は，特にこの冬は雪も少なかったので，シラガホオジロにとって好適な条件下にあったと思われる。

引用文献

- Flint, V. E., Boehme, R. L., Kostin, Y. V., & Kuznetsov, A. A. 1984. Birds of the USSR. Princeton Univ. Press. Princeton, NJ.
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑 第1巻. 講談社, 東京.
- 小林広幸. 1989. Watching だより. 野鳥軽井沢 73: 4.
- 水野馨. 1940. 満州鳥類原色大図鑑. 東京プロセス社, 東京.
- 山階芳磨. 1980. 日本の鳥類と其生態 第1巻. 出版科学総合研究所, 東京.

1. 〒251 神奈川県藤沢市鶴沼海岸3-9-13

Observations of Pine Buntings in winter in Karuizawa, central Honshu

Mitsuhiko Takahashi¹

The Pine Bunting (*Emberiza leucocephala*) is a rare winter visitor to Japan. I observed two individuals of that species on 13 November 1988 and one individual on 8 February 1989 in Karuizawa, Nagano Prefecture. These buntings were found in farmland with reedbeds and in bushes surrounded by open woods.

1. Kugenuma-kaigan 3-9-13, Fujisawa, Kanagawa 251

1989年11月20日受理